



「エコ・ファーストの約束」の 進捗状況について

2021

エコ・ファーストの取り組み

「エコ・ファースト」とは、自らの環境保全に関する取り組みを企業が環境大臣に約束し、それを受けて環境大臣が環境先進企業であることを認定する制度です。

タケエイグループは2008年11月11日に、産業廃棄物処理業界における第1号として、「エコ・ファーストの約束」を宣言しました。



エコ・ファーストの約束 (更新書)

～環境先進企業としての地球環境保全の取り組み～

平成 29 年 10 月 31 日

環境大臣 中川 雅治 殿

株式会社タケエイ
代表取締役社長 山口 仁司

「総合環境企業」を目指すタケエイグループは、企業と社会がともに持続的成長が可能な未来を実現すべく、以下の取り組みを進めてまいります。

1 資源循環型社会の実現に貢献します。

- タケエイグループは事業領域と事業地域を拡大することで、廃棄物の処理に関するお客さまのさまざまな課題について、ソリューションサービスを提供していきます。
- 2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向け、「建設廃棄物処理・リサイクル事業」の対応力強化に努めます。特に、東京・神奈川・千葉における3つのリサイクルセンターを有機的かつ一体的に運用することで、都市の再構築で排出が見込まれる大量の建設廃棄物の域内処理およびリサイクルに貢献してまいります。
- グループ全体で廃棄物の資源循環的利用を推進することで、循環型社会の促進に貢献します。特に廃棄物発電を行っている施設およびセメントメーカー等へ、発電燃料やセメント原燃料等となる廃棄物を供給します。供給量について2022年までに2015年比30%増を目指します。

2 低炭素社会の実現に貢献します。

- 現在タケエイグループで取り組んでいる再生可能エネルギー事業を今後さらに強化・拡大することで、温室効果ガスである二酸化炭素の排出抑制とエネルギー自給率の向上に寄与します。
- 再生可能エネルギー発電量について、2025年までに2015年比5倍増を目指すことで、低炭素社会の実現に貢献してまいります。
- 廃棄物を収集運搬する車両や工場で使用する重機を導入する際には、低燃費・低公害型の車両・重機を選定する取り組みを継続してまいります。また乗務員へのエコドライブの教育を徹底し、環境に優しい運転を継続して実施してまいります。

3 地域や社会に根ざした環境活動を推進します。

- 地元行政や林業従事者などと連携し、地元で生産されたエネルギー資源を地元内で活用する「電気の地産地消」スキームに基づくバイオマス発電事業を、2025年までに4ヶ所で実施します。
- 里山づくり活動や清掃活動など、地域住民や地元行政と連携・協働して環境活動を推進します。
- タケエイグループの取り組みを、地域住民をはじめとするステークホルダーの皆さまに広く知っていただくため、工場見学を定期的に実施します。また、子どもたちがゴミの分別の知識を学ぶことができる環境学習の場を提供します。

タケエイグループは、上記取り組みの進捗状況を確認し、その結果について定期的に公表するとともに、環境省へ報告します。



2021年度「エコ・ファーストの約束」の進捗状況

1 資源循環型社会の実現に貢献します。

結果 ◎：順調 / ○：おおむね順調

廃棄物の資源循環的利用の推進

○ 全体の取扱い量が減少傾向の中、リサイクルが難しいものに対してもグループ全体で再資源化を積極的に進めリサイクル量は増加しています。2021年は製鉄副資材「エコ・フォーム※」の成型機を増設し、生産性が向上しました。今後は可燃物の選別力向上のため、光学選別機を含む選別・破碎設備ラインを導入し、品質の高い RPF 原料の製造やセメント会社等向け原燃料の品質確保と共に供給量の増産に取り組んでまいります。

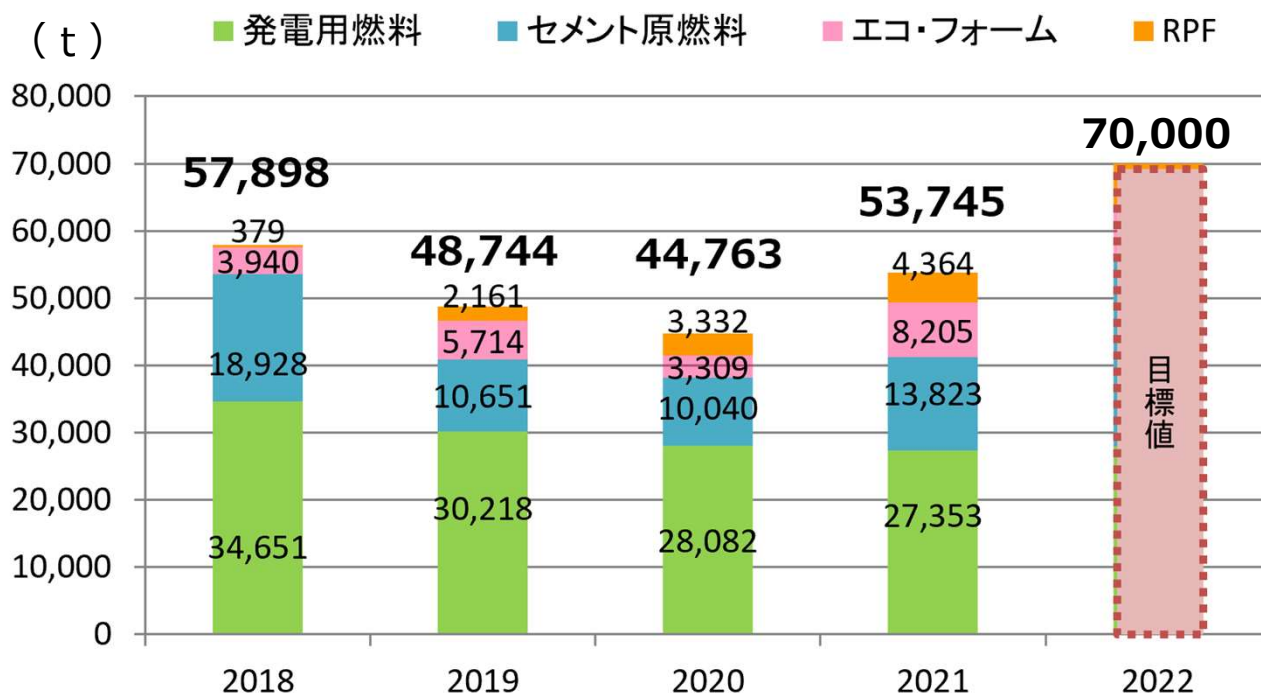
※「エコ・フォーム」とは、再資源化が難しくその多くが埋立処分されていたダスト（粉じん）を他の廃棄物と混合し成型したもので、製鉄工程の「転炉」における添加材（フォーミング抑制材）として利用されます。製鉄メーカーと共同開発し、2009年に特許を取得しています。

タケエイグループにおけるリサイクル量

599,910 t

発電燃料およびセメント原燃料の供給量推移

目標値：発電燃料およびセメント原燃料等の供給量を2022年までに2015年比30%増



2021年度「エコ・ファーストの約束」の進捗状況

2 低炭素社会の実現に貢献します。

結果 ◎：順調 / ○：おおむね順調

再生可能エネルギー発電量の増量

◎

2020年4月に首都圏最大級の木質バイオマス発電所である市原グリーン電力（株）がグループ会社となり再生可能エネルギー発電量は大幅に増大しています。その他の発電所も順調に開業・稼働し、市原グリーン電力（株）を除いた発電量を見ても目標値を大幅に上回っています（2015年比13倍）。

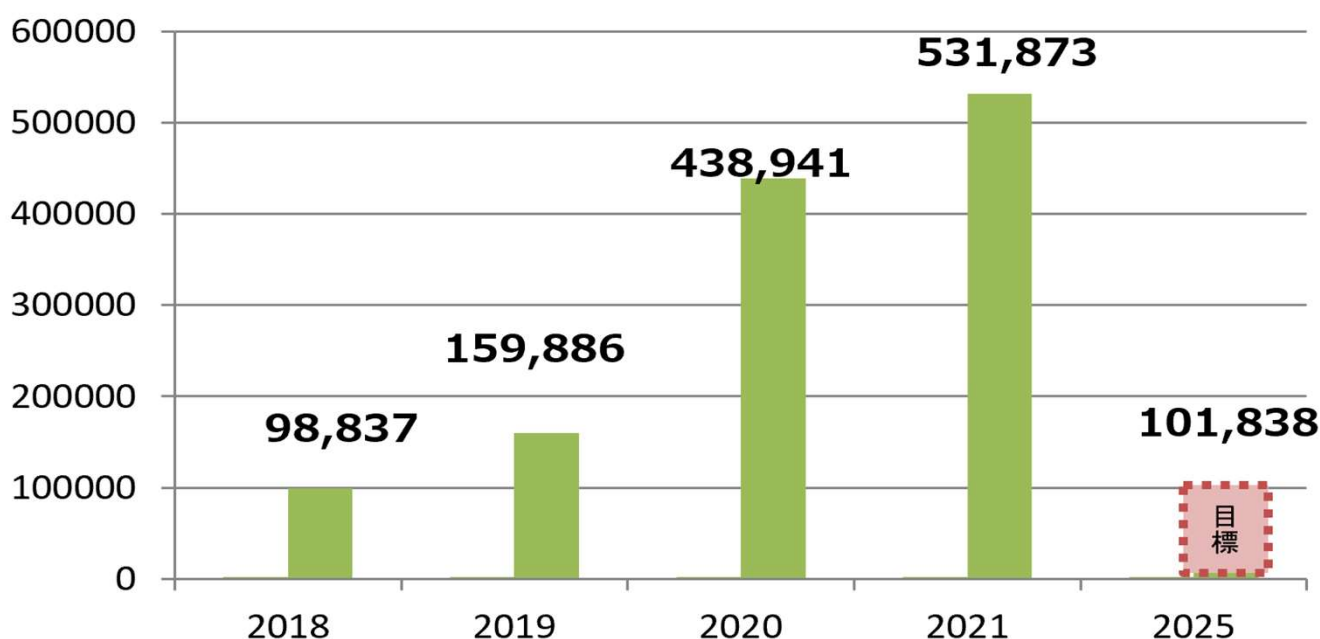
低公害車・低燃費車の導入推進

廃棄物を収集運搬する車両や工場で使用する重機を導入する際は低公害車・低燃費車を選定する取り組みを継続して進めています。2021年度の保有台数は低公害車268台、低燃費車218台となりました。

再生可能エネルギーの発電量（売電量）推移

目標値：再生可能エネルギー発電量を2025年までに2015年比5倍増

(MWh)



3 地域や社会に根ざした環境活動を推進します。

結果 ◎：順調 / ○：おおむね順調

◎

「電気の地産地消」スキームに基づく木質バイオマス発電事業

地元行政や林業従事者などと連携し、地元で生産されたエネルギー資源を地元内で活用する「電気の地産地消」スキームの木質バイオマス発電所の数は6ヶ所となりました。

環境活動の推進

地域住民や地元行政と連携・協働して清掃活動等の環境活動に継続的に取り組んでいます。また、施設見学は837件（延べ2294名）実施しました。

現在稼働中の木質バイオマス発電所

6ヶ所

目標値：2025年までに4ヶ所で実施

(株) 津軽バイオマスエナジー

(株) 大仙バイオマスエナジー

(株) タケエイグリーンリサイクル
横須賀バイオマス発電所

(株) 花巻バイオマスエナジー

(株) 田村バイオマスエナジー

市原グリーン電力 (株)

タケエイSDGs推進財団の取り組み

2020年5月1日に設立したタケエイSDGs推進財団は、SDGsの達成に寄与する活動の推進に取り組んでおり、2021年度は新型コロナウイルス感染防止対策を徹底したうえで地域社会の環境保全活動に取り組みました。

6月と9月には環境省と日本財団が推進する「海ごみゼロウィーク」に賛同し、(株)タケエイ本社周辺の清掃活動に取り組んだほか、他事業所やグループ会社にも広く周知し、会社周辺の清掃や各自治体が行う清掃活動に、延べ429名が参加しました。



※その他の環境活動はTREホールディングス 統合報告書2022 p 69～70をご覧ください。

<https://tre-hd.co.jp/sustainability/images/report/tre/report2022.pdf>